

なら 植防ニュース

平成 28 年度奈良県農薬安全使用研修会

7月22日に奈良県大和郡山市郡山総合庁舎で開催され、乾公正氏（石原産業株式会社）から「最近の農薬情勢および安全対策について」の講演が行われた。

農薬使用に伴う事故は毎年発生しており、主な原因は保護具の装備不十分や保管管理不良、誤飲誤食、農薬使用後の作業不良などが挙げられる。近年では、散布農薬のドリフトにより太陽光パネルが変色する被害も確認されている。

住宅地等における農薬散布については法令で規定されており、使用者は住宅地や近接する土地で使用する際、農薬の飛散防止措置を講じるよう努めなければならない。周辺住民へは事前に使用目的や散布日時、農薬の種類、連絡先などを周知し、看板の表示や立入制限範囲を設定して散布時や直後に他者が立ち入らないようにする。また、できるだけ農薬散布せずに済むよう、病虫害の発生しにくい作物の選定や環境整備を行なうこと、病虫害の発生に応じ適切に防除することが重要である。

平成26年、農薬登録に必要な安全性に係る試験に新たに短期暴露評価が導入された。これは、人がある物質を24時間又はそれより短時間経口摂取した場合に健康に悪影響がないと推定される一日当たりの摂取量（急性参照用量：ARfD）を用いて評価される。新規登録中の農薬だけでなく、

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内 130-1

奈良県農業研究開発センター内

TEL0744(47)4861

FAX0744(47)4862(専用)

目	次
平成28年度農薬安全使用研修	1
日本植物防疫協会シンポジウム	2
第25回日本ダニ学会札幌大会	3
登録失効になった農薬	4

登録農薬に関しても随時短期暴露評価が行なわれる。このため、登録農薬に関しても登録内容の変更が起こる可能性があるもので、注意が必要である。

農薬は、高品質の農産物の安定生産のために不可欠な生産資材である。安全性評価を実施し、合格したものが農薬として登録されるが、その選択や使用法を誤ると、使用者本人、周辺住民や周辺作物へ被害を与え、周辺環境に悪影響を及ぼすことがある。このため、使用者は安全確保のために、農薬に関する正しい知識を得て、正しく使用する責任がある。



日本植物防疫協会シンポジウムの参加報告

奈良県病害虫防除所 井村 岳男

去る9月15日に東京都の日本教育会館「一ツ橋ホール」で開催された標記シンポジウム「輸出促進戦略と植物防疫」に参加した。特に植物防疫と関連する内容について、その概略を報告する。

1. 農林水産省の輸出力強化戦略

現在、国の輸出力強化戦略の中で取り組まれている内容は、海外への輸出拡大と、海外からの旅行者に対するおみやげ等のインバウンド需要拡大である。具体的な「7つのアクション」として、①JETROへの情報の集約と一元的提供、②JAS制度を活用した高品質アップールや日本文化との一体的プロモーション、③全国統一的なリレー出荷・周年供給による戦略的販売、④農林漁業者による海外販売拠点づくりの支援、⑤規制見直しによる国内卸売市場を輸出拠点化、⑥輸出先の規制緩和・撤廃のための省庁横断による戦略的対処、⑦国内輸出手続きの簡略化、が挙げられた。

2. 植物検疫上の対応

農産物を輸出する際には、相手先国の輸出検疫への対応が求められる。現在、植物防疫所で輸出検疫を無料で実施しているほか、国別の検疫条件などの情報提供・相談対応を行っている。今後は、国レベルでは輸出解禁にかかる検疫条件の協議、地域・産地レベルでは輸出検疫をクリアできるよ

うな防除技術開発が求められる。

また、海外からの旅行者がお土産として農産物を購入する、いわゆるインバウンド需要への対応として、旅行者への便宜を図るための検疫手続き効率化の取り組みが、国のモデル事業として夕張メロンと福岡のあまおうで実施されている。

3. 残留農薬への対応

輸出に当たっては、相手先国の残留農薬基準をクリアできるような防除体系の確立が求められる。現在、農研機構が中心となり、茶とイチゴで残留基準をクリアできるIPM体系確立に取り組んでいる。今後は、相手先国の残留基準変更に係る情報を収集し、使用方法の変更を即時に生産者に伝えられるシステムの確立も必要となる。

9月1日より奈良県植物防疫協会の事務所は、桜井市（奈良県農業研究開発センター内）に移転しました。住所、電話、FAXが1ページの通り変わりました。



現場管理棟の事務所

第25回日本ダニ学会札幌大会の参加報告

奈良県農業研究開発センター 今村剛士

2016年10月15日～16日に札幌市にて、第25回日本ダニ学会が開催された。

演題数は38、生態学や植物寄生性ダニ、動物寄生性ダニ、水生ダニなど多岐にわたる発表があった。その中から、農業現場に直結するハダニ防除についての講演を紹介する。

・「ハダニは躁にも鬱にもならない？ ～浸透移行性殺虫剤の影響評価～」

国立環境研究所 五箇公一氏

現在よく使われている浸透移行性殺虫剤に、ネオニコチノイド系殺虫剤やフェニルピラゾール系殺虫剤がある。ネオニコチノイド系殺虫剤の作用機構は、神経を興奮状態にさせ続け（躁状態）、死亡に至らせる。一方、フェニルピラゾール系殺虫剤は、神経を鎮静状態にさせ続け（鬱状態）、死亡に至らせる。これらの殺虫剤は昆虫類には作用するが、ダニ類には作用しない。即ち、効果が無い。そのうえ、ネオニコチノイド系殺虫剤であるイミダクロプリドを作物に処理すると、処理していない作物に比べてハダニが増加した。これは、昆虫類である天敵のパフォーマンスの低下（個体数や捕食量の減少）と、アブラムシ等の葉裏に寄生する競争相手の減少によるものであった。イミダクロプリド処理でハダニの産卵数が増加するという海外のデータがあるが、演者の調査ではそのような傾向は見ら

れなかった。ハダニの防除には、こういった生物間相互作用も考慮する必要がある。

・「UVB法によるナミハダニの防除メカニズム」

京都大学大学院農学研究科 中井一宏氏
イチゴ等における新たなナミハダニ防除法として、紫外線を用いた物理的防除法(UVB法)の研究が進められている。イチゴの葉裏へのUVB照射でハダニの発生が抑えられるメカニズムを明らかにした。ほ場試験で実際照射するUVBの光量(0.27kJ/m²・d)では卵は全て死亡するものの、成幼虫は生存し、その後の産卵にも影響は無かった。また照射された際、幼虫はUVBを回避せず、成虫は回避する傾向にあった。このことから、卵の死亡による次世代の抑制ならびに成虫のUVB回避行動による逃亡等により、イチゴでのハダニの増殖が抑制されている。



ナミハダニ

登録農薬失効情報(2016. 6. 1~2016. 9. 30)

農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名	失効日
殺虫剤				
11633	除虫菊乳剤	キング除虫菊乳剤 3	キョウ園芸	6/5
11870	ホサロン乳剤	ホクコールビトックス乳剤	北興化学	9/29
13267	マシン油乳剤	グリーンオイル	富士グリーン	7/2
14308	ダイアジノン乳剤	エキソジノン乳剤	日本農薬	6/17
14361	酸化フェンブタスズ水和剤	オサダン水和剤 2 5	BASFジヤ	9/22
15523	マシン油エアゾル	キングマシンエアゾール	白元アース	7/21
19053	M E P 液剤	スミチオンスプレー	住友園芸	9/7
20654	B T 粒剤	ブイハンター粒剤	住友化学	6/11
21340	イミダクロプリドエアゾル	アースガーデンQ	アース	8/13
21898	チオジカルブ水和剤	日曹ラーピン水和剤 7 5	日本曹達	6/28
21983	ピリミホスメチル乳剤	ヨトーダン乳剤	シジエタ	7/18
22013	シフルトリン液剤	アースガーデンD	アース	9/19
殺虫殺菌剤				
21307	イミダクロプリド・アゾキシストロピン粒剤	クミアイアミスターアドマイヤー箱粒剤	ケイ化学	7/21
20683	イミダクロプリド・メトキシフェノジド・ベンシクロン粉剤	モンセレンランナーAD粉剤DL	バエル	8/30
18172	エトフェンブロックス・フェリムゾン・フサライド粉剤	サンケイブラシントレボン粉剤DL	サンケイ	6/26
21359	クロチアニジン・シクロシメット・フェリムゾン粉剤	ブラストップダントツ粉剤DL	住友化学	9/22
21353	ジノテフラン・カスガマイシン・バリダマイシン・フサライド粉剤	カスラブバリダスタークル粉剤3DL	北興化学	9/22
21358	チアクロプリド・チアジニル粒剤	バイエルブイゲットバリアード粒剤	バエル	9/22
23274	フィブロニル・オリサストロピン・トリシクラゾール粒剤	ビームプリンス嵐箱粒剤	BASFジヤ	6/12
22011	フィブロニル・チアジニル・フラメトピル粒剤	住友化学ブイゲットプリンスリンパーL粒剤	住友化学	9/19
21019	フィブロニル・チフルザミド・プロベナゾール粒剤	DASビルダープリンスグレータム粒剤	日産化学	6/1
20009	フィブロニル・プロベナゾール粒剤	ローヌ・ブーランドr.オリゼプリンス粒剤10	BASFジヤ	7/17
20012	フィブロニル・プロベナゾール粒剤	ローヌ・ブーランドr.オリゼプリンス粒剤6	BASFジヤ	7/17
22732	フェンプロバトリン・テトラコナゾール液剤	ガーデンケアスプレー	キョウ園芸	6/9
殺菌剤				
7	石灰硫黄合剤	キング石灰硫黄合剤	白元アース	6/5
15552	銅水和剤	コサイドポルドー	デュポン	7/21
16520	バリダマイシン液剤	サンケイバリダシンエアー	サンケイ	9/13
19025	バリダマイシン・フェリムゾン・フサライド水和剤	サンケイブラシンバリダゾル	サンケイ	6/30
20017	シプロジニル水和剤	ユニックス顆粒水和剤47	シジエタ	8/31
20018	シプロジニル・ジラム水和剤	ユニックスZ水和剤	シジエタ	8/31
21297	キャプタン水和剤	オーソサイド顆粒水和剤80	アリタ	6/9
22734	銅水和剤	ホクサンコサイドDF	ホクサン	6/9
22770	メタラキシルM粒剤	リドミルゴールド粒剤1	シジエタ	8/10
22925	アミスルプロム水和剤	ボルテックスFS	日産化学	6/15
23303	エタボキサム水和剤	エトフィンフロアブル	住友化学	8/6
23304	エタボキサム水和剤	日曹エトフィンフロアブル	日本曹達	8/6
除草剤				
18169	ダイムロン・ベンスルフロロンメチル・メフェナセット粒剤	バイエルザークD粒剤17	バエル	6/26
18193	ベンスルフロロンメチル・メフェナセット粒剤	バイエルザーク粒剤25	バエル	9/30
20032	テニルクロール・ピリプチカルブ・ベンスルフロロンメチル水和剤	石原キングダムLフロアブル	石原産業	9/3
20996	グリホサートイソプロピルアミン塩液剤	ピラサート液剤	ピラー社	7/5
21342	グリホサートイソプロピルアミン塩・ピラフルフェンエチル水和剤	キングスター	ニチノ緑化	9/8
21996	ピリフタリド・プレチラクロール・ベンスルフロロンメチル水和剤	アピロトップLフロアブル	シジエタ	8/1
22008	オキサジクロメホン・ベンスルフロロンメチル・ベンゾビシクロン粒剤	プラスワン1キロ粒剤51	デュポン	9/19
22750	フェントラザミド・ベンスルフロロンメチル水和剤	ホクサンイノーバフロアブル	ホクサン	7/7
22751	フェントラザミド・ベンスルフロロンメチル粒剤	ホクサンイノーバ1キロ粒剤75	ホクサン	7/7
22752	フェントラザミド・プロモブチド・ベンスルフロロンメチル粒剤	ホクサンイノーバDX1キロ粒剤75	ホクサン	7/7
22765	メトリブジン・DBN粒剤	クサフジ粒剤	キョウ園芸	8/4
23354	ダイムロン・ピラクロニル・メタソスルフロロン粒剤	銀河ゼロ1キロ粒剤	日産化学	9/25
その他				
19328	デシルアルコール乳剤	オーディラン乳剤	OATアグリア	6/21
22779	ウニコナゾールP複合肥料	コープショーター発18	片倉ユニアグ	8/10